

2026 年 6 月 28 日

主日礼拝

礼拝讃美歌⇒199 番

『憂いの中へと』

聖書⇒創世記 18 章 26~28、32 節 (MM 姉)

『主は言われた。「もしソドムの町に正しい者が五十人いるならば、その者たちのために、町全部を赦そう。」アブラハムは答えた。「塵あくたにすぎないわたしですが、あえて、わが主に申し上げます。もしかすると、五十人の正しい者に五人足りないかもしれません。それでもあなたは、五人足りないために、町のすべてを滅ぼされますか。」主は言われた。「もし、四十五人いれば滅ぼさない。」』

アブラハムは言った。「主よ、どうかお怒りにならずに、もう一度だけ言わせてください。もしかすると、十人しかいないかもしれません。」主は言われた。「その十人のためにわたしは滅ぼさない。」』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒413 番

『地の塵に等しかり』

聖書⇒詩編 115 編 1~8 節 (KT 姉)

『わたしたちではなく、主よ／
わたしたちではなく／
あなたの御名こそ、栄え輝きますように／
あなたの慈しみとまことによって。
なぜ国々は言うのか／
「彼らの神はどこにいる」と。
わたしたちの神は天にいまし／
御旨のままにすべてを行われる。
国々の偶像は金銀にすぎず／
人間の手が造ったもの。
口があっても話せず／
目があっても見えない。
耳があっても聞こえず／

鼻があってもかぐことができない。
手があってもつかめず／
足があっても歩けず／
喉があっても声を出せない。
偶像を造り、それに依り頼む者は／
皆、偶像と同じようになる。』

聖書⇒ルカによる福音書 23 章 40b~43 節

『「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においてになるときは、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒338 番 (KH 兄)

『尊き血をもて』

《パン裂き》

聖書⇒レビ記 1 章 3~5, 9 節 (KH 兄)

『牛を焼き尽くす献げ物とする場合には、無傷の雄をささげる。奉納者は主に受け入れられるよう、臨在の幕屋の入り口にそれを引いて行き、手を献げ物とする牛の頭に置くと、それは、その人の罪を贖う儀式を行うものとして受け入れられる。奉納者がその牛を主の御前で屠ると、アロンの子らである祭司たちは血を臨在の幕屋の入り口にある祭壇の四つの側面に注ぎかけてささげる。

奉納者が内臓と四肢を水で洗うと、祭司はその全部を祭壇で燃やして煙にする。これが焼き尽くす献げ物であり、燃やして主にささげる宥めの香りである。』

聖書⇒エフェソの信徒への手紙 5 章 2 節

『キリストがわたしたちを愛して、御自分を香りのよい供え物、つまり、いけにえとしてわたしたちのために神に献げてくださったように、あなたがたも愛によって歩みなさい。』

(式)

礼拝讃美歌⇒145 番
『主イエスよわれらは』

《建徳》

聖書⇒エゼキエル書 36 章 26 節 (YN 兄)

『わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与える。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙二 3 章 7~9 節

『ところで、石に刻まれた文字に基づいて死に仕える務めさえ栄光を帯びて、モーセの顔に輝いていたつかの間の栄光のために、イスラエルの子らが彼の顔を見つめえないほどであったとすれば、霊に仕える務めは、なおさら、栄光を帯びているはずではありませんか。人を罪に定める務めが栄光をまもっていたとすれば、人を義とする務めは、なおさら、栄光に満ちあふれています。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 6 章 53~55 節

『イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。』

聖書⇒ルカによる福音書 22 章 19~20 節

『それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 3 章 3~6 節 (KH 兄)

『イエスは答えて言われた。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」ニコデモは言った。「年をとった者が、どうして生まれることができますしょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるのでしょうか。」イエスはお答えになった。「はっきり言うておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 3 章 11~15 節

『はっきり言っておく。わたしたちは知っていることを語り、見たことを証しているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れない。わたしが地上のことを話しても信じないとすれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう。天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者はだれもない。そして、モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。』

聖書ヨハネによる福音書 3 章 16 節

『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。』

礼拝讃美歌⇒468 番 (KH 兄)

『喜び伝えよ』

《建徳要旨》